

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズ荏原町
施設所在地	東京都品川区中延5-6-9
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

子ども達は身近な物や素材に触れることを楽しんでいる。また新しい見慣れない素材にも興味や関心を持つ姿が見られる。様々な感触遊びを提供していく中で、好奇心を育み、子ども達の手先の細やかな動きの練習、指先の発達に繋げていくため。

2. 活動スケジュール

7月 ボディペインティング絵の具、氷絵の具
8月 うどん作り
9月 秋祭り、サーキット
10月 すなっこパーラー
11月 布、感触絵本
12月 スティック・オー、ヘアードレッサー
2月 ティーパーティー

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<素材、道具>

・海作り（青系の絵の具、模造紙、サランラップ、ブルーシート）魚作り（氷型、絵の具、木のスプーン、ストロー、画用紙）

<環境設定>

・海作りでは、1,2歳児はブルーシートの上に模造紙を敷き、パレットに水色、青、紺色の青系の絵の具を準備した。0歳児は、机の上に模造紙を敷き、絵の具を乗せてその上からラップを敷いた。0歳児は椅子に座って活動を行った。

・魚作りでは、机の上に画用紙を人数分用意し、氷絵の具も机の上に置いて、好きな色の氷で絵を描けるようにした。氷絵の具は、描きやすいようにストローや木のスプーンで持ち手を作った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

普段から、色水のボトルに興味を持って遊んでいたりと、散歩時に金魚や鯉を真剣に見ていたことから、大きな海を作って魚を泳がせてみようかと問いかけた。制作が好きな児が多かったため、「やる！」と言いながらワクワクと嬉しそうなる表情を浮かべる児がいた。制作は青系の絵の具を使って模造紙の上に自由に色を乗せ、海を描いた。0歳児は、絵の具に触れるのが初めての児もいたため、模造紙の上に絵の具を置き、その上にラップを敷いて感触に慣れることができるようにした。氷絵の具を作り、子ども達に画用紙に自由に色をつけてもらった。海の絵の具と、氷絵の具が乾いてから、氷絵の具で描いた画用紙を魚の形に切ったものを、製作した海に貼った。魚は子ども達に好きな場所に貼ってもらった。魚の色はピンクやオレンジ、緑などを用意し、子ども達に好きな色を選んでもらった。氷絵の具は子ども達が持ちやすいように、棒状の水を作ったり、ストローや木のスプーンを使って持ち手を作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・1.2歳児は、初めから大胆に両手を使って青色を塗り広げる児と、指先を使って細かく塗る児がいた。端っこが白いままだと気が付いた児が、「こっち塗れてないよ！」と声を掛ける場面もあり、その声掛けに気が付いた他の児が端っこに絵の具を塗りに行くこともあった。同じ青色でも、自分が好きな色を選んで塗っていた。
- ・0歳児は、絵の具に初めて触れる児もいたため、ラップ越しでも嫌がって触れなかった児もいた。他の児が触れているのを見て恐る恐る触れる児や、初めから指先で触れて笑顔を浮かべる児もいた。
- ・氷絵の具では、それぞれの児が好きな色を選んで画用紙に色を付けていた。氷に触れながら「つめたいよ」と話している児や、溶けた色水を指で画用紙に広げている児もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・絵の具の感触を楽しみ、大胆に表現することができた。0歳児は初めての感触を味わうことができ、今回の体験で感触に慣れて楽しむことができた児もいた。
- ・完成した作品を見て、嬉しそうに自分の貼った魚を保育者に教えてくれて、達成感を味わうことができていた。
- ・より魚に興味をもって散歩中に魚を見つけた時には、「泳いでるね」と言いながら真剣に観察をしていた。
- ・水色や紺色、青色など、青色の中でもいろいろな色があることを知り、なんで色が違うの？と疑問をもつことができていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズ荏原町
施設所在地	東京都品川区中延5-6-9
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

子ども達は身近な物や素材に触れることを楽しんでいる。また新しい見慣れない素材にも興味や関心を持つ姿が見られる。様々な感触遊びを提供していく中で、好奇心を育み、子ども達の手先の細やかな動きの練習、指先の発達に繋げていくため。

2. 活動スケジュール

7月 ボディペインティング絵の具、氷絵の具
8月 うどん作り
9月 秋祭り、サーキット
10月 すなっこパーラー
11月 布、感触絵本
12月 スティック・オー、ヘアードレッサー
2月 ティーパーティー

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

1日目...小麦粉、塩 水 たらい ふるい ビニール袋 綿棒 ままごと用の包丁 電気調理器
2日目...うどんを流すための道具 紙皿フォーク絵具で作ったつゆ

【1日目 うどん作りごっこ】

はじめに、保育者がうどん作りを流れを話しながら手順を知らせた。一人ひとり順番にうどん作りの工程を体験できるようにした。

小麦粉をふるう→塩を入れる→水を入れる→手でかき混ぜながらこねる→生地をビニール袋の中に入れて足で踏み感触を味わいながら生地

を仕上げた。→生地を綿棒で伸ばす→カットする→お湯でゆでる。

・少人数のグループに別れて行った。特に生地を綿棒で伸ばす、カットする工程は子どもの探求を尊重し、見守る姿勢や共感する言葉掛けを心がけた。うどんを伸ばしている時に型どりをしてい子もいたので準備した。

【2日目 流しうどんごっこ】

・自分で作ったうどんを流すことや流れてきたうどんをすくうことを楽しんだり、つゆを入れて食べる真似をして楽しんだりした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・夏に楽しんでいる流しそうめんごっこの話をして「今回は皆が大好きな流しうどんにしてみよう？」と問いかけた。「うどん給食で出るよすき！」という声が聞かれた。うどんが小麦粉から出来ていることを話して、小麦粉からうどんを作ってみることを提案した。「やってみたい！」と言ってわくわくした表情をしていた。
- ・小麦粉の粉の感触を味わいながら水を入れてこねることで、感触の違いや形状の変化を楽しむ。
- ・うどん作りごっこを楽しむ中、小麦からうどんが出来ていることや小麦粉ががどのようにしてできるかにも興味や関心をもつ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・粉をふるう、塩と水を入れる場面では、とても真剣な表情で体験していた子ども達だったが、ある程度生地が混ざり、一人ひとりのビニールの中に生地を入れて、足で踏むことになると「冷たい!」「かたいね!」などと呟いていた。「ジャンプしていい?」と聞かれたので「いいよ!」と言うと大胆にジャンプを繰り返したり生地の上に座ったりして感触を楽しんだ。
- ・出来上がった生地を綿棒で伸ばす時は、綿棒の使い方難しかったが、2歳児クラス子はどうしても使いたくて「どうやってやるの?」保育者に聞いていた。コツをつかむと「できた!」と得意げになっていた。1歳児クラスの子は、手で叩いて伸ばしていた。生地をカットする時は同じ太さでカットしようとする子もいたが、小麦粉粘土で遊んでいるつもりになったのか、ちぎる、丸める、型取りする子もいた。小麦粉土も小麦粉と水で作ることを話した。うどんのように細長くカットしようとするこもいたが、小麦粉粘土、すいとん、ナンのような形もあって面白かった。うどんの生地の感触を十分に楽しみながら遊んでいた。
- ・自分で作ったうどんを茹でてもらう場面では、鍋の中に入れたうどんがどうなるか真剣な表情で見ている。茹で上がったうどんをさました後、感触を確かめながら「やわらかい!」と話していた。明日は「流しうどんごっこ」をすることを知らせると、「楽しみ!早くやりたい!」と期待感いっぱいだった。
- ・「流しうどんごっこ」では自分で作ったうどんを流すことやフォークですくうことを楽しんだ。容器に入ったうどんに絵具で作ったつゆをかけて、制作したねぎやなるとを乗せて食べる真似をして楽しんだ。
- ・この日のおやつはうどんとてもよく食べた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・給食のメニューがうどんだととても喜ぶ子ども達で、今回の「うどん作りごっこ」を楽しむことで、小麦粉からうどんが出来ることを大まかに知ることができた。
- ・さらさらの粉の感触から水を少しずつ入れていくことで、ポロポロになりやわらかな感触に変化する様子を肌で感じることを十分に楽しめた。
- ・生地を足で踏む場面や出来上がった生地をカットする場面では子ども達が自由に楽しめる環境を大事にすることで、子ども達が夢中になって遊んでいた。
- ・自分たちで作ったうどんを食べることはできなかったが、「流しうどんごっこ」の日におやつがうどんだったことで、とても喜びいつも以上におかわりをしていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズ荏原町
施設所在地	東京都品川区中延5-6-9
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

子ども達は身近な物や素材に触れることに楽しんでいる。また新しい見慣れない素材にも興味や関心を持つ姿が見られる。様々な感触遊びを提供していく中で、好奇心を育み、子どもたちの手先の細やかな動きの練習、指先の発達に繋げるため。

2. 活動スケジュール

7月 ボディペインティング絵の具、氷絵の具
8月 うどん作り
9月 秋祭り、サーキット
10月 すなっこパーラー
11月 布、感触絵本
12月 スティック・オー、ヘアドレッサー
2月 ティーパーティー

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・散歩でいつも空の色や月に興味を持ってたことや夏に絵の具を使って、子どもたちからも大きな手形をしたいとの声もあったので宇宙をテーマに秋祭りの準備を行った。スタンプ台と絵の具を使い感触の違いも楽しめるようにして、大型のお月様を作ることにした。また空にも興味を持っていたので、カラービニールを用いて大きなトンネルを作り、青で地上の空を、黒で宇宙を作った。以前から「きらきら星」の歌が好きで星にも興味があったので、大きな星の風船も準備して地上と宇宙を分けた環境を設定した。

・センサリーマット、ウェイブバランス、ボールプールはサーキット遊びで使用した。以前から子どもたちはサーキットを使って遊ぶことが好きだった。昨年スポンジや液体のりを使ったセンサリーマットを手で感触を楽しんでいたことや、サーキットで出すとこども自ら足で踏む様子もあったので、手足を使って様々な感触を楽しむことができるようにセンサリーマットとウェイブバランス、大きなマット、ボールプールを準備した。これらを準備することで普段はあまり使わない体の動きやしりがむ転がるなどの動きが楽しめるように設定した。プールスティックもした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

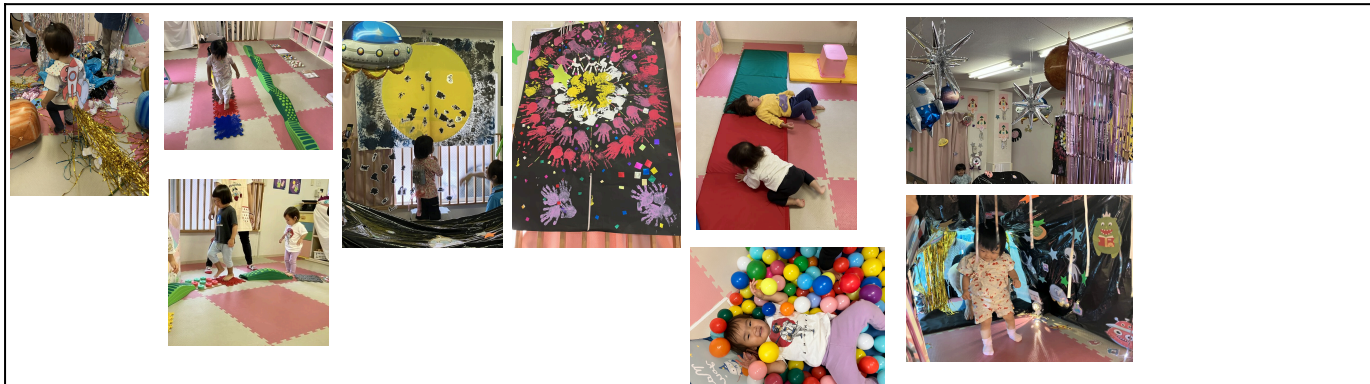
・秋祭りでは大きなお月様を手形スタンプで作った。8月に手形スタンプで海を作ったことを覚えていたので、お月様の周りを手形スタンプにした。宇宙を作ることを話すと空の色は黒にしたいとのリクエストから黒色の絵の具とスタンプ台をを使って自由に模造紙の上にスタンプをした。トンネルの中には子どもの声もあり、宇宙人や太陽以外にもキャラクターが空を飛んでいるような雰囲気にもした。これは子どもたちが怖がらずに宇宙空間を楽しめるようにした。また風船も好きなので宇宙の形をした風船やロケットを購入した。子どもが「地球」や「ロケット」と興味を持つ様子もあったので飾りつけることで、実際にも触れるようにした。

・サーキットでは昨年度も使用した保育士手作りのセンサリーマットも加えて、マット、ウェイブバランス、センサリーマットを使用した。マットはトンネルにして屈んで通る、ウェイブバランスでは平行にして平均台のようにして両手を広げてバランスを取っていた。センサリーマットはサーキットの移動の中で足で踏める場所を作ると、足で踏んだり手でも触るなど好きなように触れていた。大きめのマットはトンネル以外にも伸ばすとその上を寝転がる、ハイハイをして移動していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・夏に絵の具で花火をしたことを覚えていたことや、子どもたちが天気に興味を持ち特に「月」に関心があったので、「月を作ってみる？」と提案した。実際に大きい模造紙を準備し、月の写真を見せると子どもからお空をつくりたいとのリクエストがあった。秋祭りでの花火、お月様の制作では手形を取る時に「両手でしたい！」や「色変えてもいい？」と絵の具の色や感触に興味を持ち制作に取り組む様子があった。実際当日には両親と一緒にきた時には「これが私の手だよ」や「黒でべったんしたの！」と伝える姿があった。ロケットや宇宙船の風船は子どもの手の届くところに置いていた。最初は風船だと思って触っていた子どもたちが「星がある！」やトンネルの中にもいたなどと風船の形や名前にも興味を持って触っていた。片付けの時には一つひとつ木星や地球であることを伝えると、トンネルの中にも一緒に形がいたことに気がつき、友達にも「これ一緒だよ」と話す様子があった。

・サーキットでは初めてセンサリーマットを用いた。最初は苦手な感触や足で踏むと「いたい」と言いながら避ける様子もあった。少しずつ形を変えながら何度か繰り返し置いていると手で触ったり、足で踏んでも慣れてきたのか「痛くない」や「これチクチクするけど手は痛くない」など感触でも変化があった。マットはその上を転がる様子にしたり、トンネルにしたりした。転がり方がわかっていない子どもが多く、「どんぐりころころ」と伝えながら行くとイメージしたのか「コロコロ～」と言いながら転がることができていた。マットをトンネルにしたときに子供から「トランポリンがしたい」と提案があった。何枚か重ねてトランポリンにしてみるとマットの上を飛び跳ねながら「ふわふわしてる」との声もあった。ウェイブバランスでは真っ直ぐにしたり、丸くしたり形を変えた。真っ直ぐにした時には座ってバスごっこが始まっていた。丸くした中にボールを入れると中と外でのボールの投げ合いやウェイブバランスの上に乗ってバランスを保ちながら投げる様子もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・秋祭りを通して天気にも興味が出たことや、絵の具、スタンプ台にも興味を持つ子どもが多くなってきた。またカラービニールは片付けの時に自ら頭に被せたり、“お洋服”と言いながら遊ぶ姿もあった。子どもの姿から衣装にもしてごっこ遊びやコンサートなどを通して使用することもできると思った。

・サーキットでは様々な感触のある玩具を使った。特にセンサリーマットでは痛い、柔らかい、硬いなど様々な感覚を知ることができた。特に“ふわふわ”した素材に興味を持つ姿があったので、センサリーマット以外にも布やタオルなどの感触も使うことが出来るとより子どもたちにも興味を持って触れるなどと思ったので、今後も引き続き感触の違いにも気がつけるような環境を設定したい。サーキットでは子どもたちがしゃがむ、かがむなどの動作が苦手だと知ることもできた。マットをトンネルにしたり、ウェイブバランスの上に乗って遊ぶなどの取り組むことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズ荏原町
施設所在地	東京都品川区中延5-6-9
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

子ども達は身近な物や素材に触れることに楽しんでいる。また新しい見慣れない素材にも興味や関心を持つ姿が見られる。様々な感触遊びを提供していく中で、好奇心を育み、子どもたちの手先の細やかな動きの練習、指先の発達に繋げるため。

2. 活動スケジュール

7月 ボディペインティング絵の具、氷絵の具
8月 うどん作り
9月 秋祭り、サーキット
10月 すなっこパーラー
11月 布、感触絵本
12月 スティック・オー、ヘアードレッサー
2月 ティーパーティー

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<素材、道具>

- ・すなっこパーラー、砂、砂利、水

<環境設定>

・砂場のある公園や砂利のある公園に行き、砂の感触や砂と砂利の違いを知ることができるように環境を設定した。また、水に濡れている時の砂と、乾いている時の砂の違いを楽しめるように、水場のある公園にも行くようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・普段からおままごと遊びが好きな児が多く、散歩先でも遊具を用いてお店屋さんごっこをしていることが多かったため、砂場のある公園や砂利のある公園に散歩に行き、すなっこパーラーを用いて、これでいろいろなおままごとをしようかと問いかけた。子ども達は嬉しそうな表情で、自分の好きな形の玩具を取って遊び始めていた。
- ・砂が水を吸っていく様子を観察したり、水を吸ったことで感触が変わる様子を体験した。
- ・砂利のある公園と砂場のある公園どちらにも散歩に行き、感触の違いを見つけながら遊んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・すなっこパーラーを見て、自分の好きな形のカップを取り、砂を入れてスプーンや手ですくっておまごとする児や、トレーに食器や砂を持って保育者に配膳してくれる児もいた。
- ・0歳児は、保育者が型を使って作った砂のケーキを指やてのひらでつぶして感触を楽しんでいた。
- ・スコップを使って地面に穴を掘り、穴に入って遊んでいる児や、穴を掘ったことでできた砂の山に、手で穴を掘りながら「トンネル!」と楽しんでいる児もいた。
- ・砂が水を吸っていく様子をみんなで丸になって囲みながら、真剣に観察したり、水を吸った後の砂に指で触れて、土のついた指を興味深そうに観察していることもあった。
- ・砂場の中でも、少し大きめの砂利をカップに集めて楽しんでいる児もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・砂と砂利の違いを見つけて、それぞれの感触を楽しむことができていた。
- ・砂が水を吸ったのを見て、まずは色が違うことに気が付き、その後感触も違うことに気が付くことができていた。
- ・戸外活動の中で、子ども達から「砂場遊びがしたい」や「ケーキ作って」などという声が増えていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズ荏原町
施設所在地	東京都品川区中延5-6-9
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

子ども達は身近な物や素材に触れることに楽しんでいる。また新しい見慣れない素材にも興味や関心を持つ姿が見られる。様々な感触遊びを提供していく中で、好奇心を育み、子どもたちの手先の細やかな動きの練習、指先の発達に繋げるため。

2. 活動スケジュール

7月 ボディペインティング絵の具、氷絵の具
8月 うどん作り
9月 秋祭り、サーキット
10月 すなっこパーラー
11月 布、感触絵本
12月 スティック・オー、ヘアードレッサー
2月 ティーパーティー

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<素材、道具> 綿の生地、タオル地、ぬいぐるみの生地、レース地、シフォンスカーフ、ワイヤーネット、バスケット、蓋に穴が空いている円形の容器、<環境設定>バスケットの上にワイヤーネットを置き、軽く固定。ワイヤーを利用し用意をした布を結んでおいた。円形の容器の中にはシフォンスカーフやレースを結んだ物を入れた。ゆったりと遊べるようワイヤーや容器の数を多く準備した。

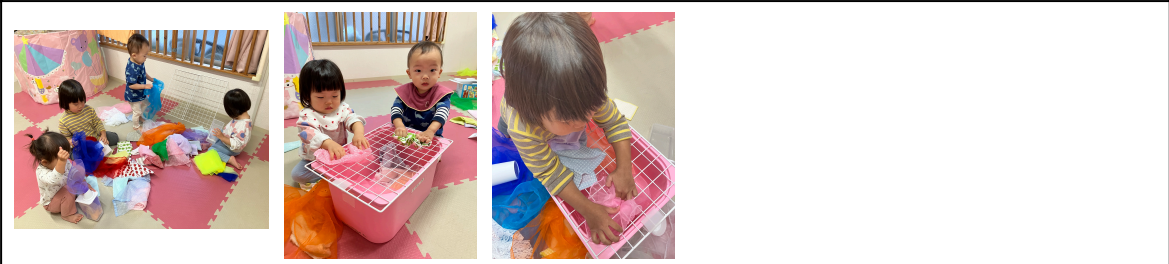
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

以前よりハンカチやシフォンスカーフで遊んでいた子どもの姿や、ぬいぐるみを抱っこしていた姿から、違う感触の布がある事も知って欲しい思いから、「今度いろいろな布で遊んでみる？」と問いかけた。1、2歳児は「うん」「やりたい」と答え、0歳児はニコニコの笑顔を返していた。11月12日（金）初めに用意した布類の名前を問いかけたが「タオル」とぬいぐるみの布のみ知っていたが、他は知らないようだったので全ての布類を手で触れ、名前を覚えたり感触の違いがわかるようにした。ワイヤーに結ばれていた布類を解いて遊び、感触の違いにより布類の硬さや柔らかさがわかるようにした。穴の空いている円形の容器からは、シフォンスカーフがつかまって出てくる楽しさを、感触を通して感じられるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

布類を手を持つと、丸めたりフワッと投げたりしていた。布に触れながら「柔らかいね。ふわふわする。なんか冷たい。」と1、2歳時は思い思いに言葉にしていた。0歳児は言葉では表現できなかったが、柔らかい布は頬に当てて気持ちよさそうにしていた。保育者がシフォンスカーフをつぼみのように両手の中に隠し、「お花が咲くよ。」と言いながら両手を開くと皆喜び「きれい。可愛い。」と話して、一緒に真似る児もいた。ワイヤーに結んであった布は、ここの発達により、ほどけたりほどけなかったりした。タオル地とレースはほどけずらいようだった。ほどけなかった児は遊び方を発展させて、ワイヤーの穴から布をバスケットの中に入れて楽しんでいた。穴の空いた円形の容器から長く繋がったシフォンスカーフを、引っ張って遊ぶ姿も見られた。「柔らかい。気持ち良い。」と話しながら、スカーフを体に巻いて遊び始め、体でも感触を楽しんでいた。1人が穴から出すのではなく、穴の中に布を入れる遊びを始めると、他の児も同じ遊びを始め、遊びが発展されていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

布にもいろいろな種類があり、感触の違い（硬い、柔らかい、ふわふわ、ちくちく、）があることに気付くようになった。布の感触を楽しみながら、自分たちで考えて遊びを広げることもできていた。両手だけではなく洋服のように巻き、体でも感触を楽しむ姿に感性も感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズ荏原町
施設所在地	東京都品川区中延5-6-9
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

子ども達は身近な物や素材に触れることに楽しんでいる。また新しい見慣れない素材にも興味や関心を持つ姿が見られる。様々な感触遊びを提供していく中で、好奇心を育み、子どもたちの手先の細やかな動きの練習、指先の発達に繋げるため。

2. 活動スケジュール

7月 ボディペインティング絵の具、氷絵の具
8月 うどん作り
9月 秋祭り、サーキット
10月 すなっこパーラー
11月 布、感触絵本
12月 スティック・オー、ヘアードレッサー
2月 ティーパーティー

<素材、道具>

感触絵本(ゆびゆび絵本、ぐるぐるさん、いっぱいスイッチ、スイッチくるくる)

<環境設定>

床に座り好きな感触絵本に触れて遊ぶ。指先を使って仕掛けを動かすと光や音が出たり、絵が回ることを、子ども自身が発見し、満足できるまで遊べる雰囲気作りを行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

11月中旬、曲が流れる絵本の絵本のボタンを押したり、玩具のボタンを何度も押して遊んでいた姿から、「いろいろなボタンやスイッチがあると楽しいのかな？」と0歳児に問いかけに言葉を話せる児が「やる」と返事をくれた。保育者も指先の発達を促す絵本があると遊びが広がり楽しいのではと考えた。11月19日光や音の出る感触絵本で遊ぶ事にした。絵本を子どもたちの前に置き、好きな絵本を選んで遊べるようにした。スイッチを指先でつまむ引っ張る回す伸ばすなどの動きで遊んだり、絵本の仕掛けを指先で回しながら遊んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

感触絵本を出すと、皆笑顔で側に集まってきた。「きゃー」と喜びの声を上げたり、パチパチと両手を合わせて喜んでいた児もいた。「どうぞ。遊んでね。」の言葉をかけると、スイッチをつまんだり引っ張ったり押したりして感触を楽しんでいた。指先を使うことで音を聞いたり、光も見ることができたので喜んでいました。仕掛け絵本では指先で回すやり方が分からず、絵本だけを見ていたので、保育者が指で回すと真似て自分太刀で回せるようになった。指でつまんで絵本の一部を引き出す事はすぐにできていた。言葉がしっかりと話せる児は「楽しい。」と保育者に伝えながら、遊んでいた。真剣な表情や笑顔で感触を楽しみ夢中だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

感触を楽しみながら、指先でつまむ、押す、は1人でできていたが、回す事はどの児も難しそうだったので、保育者がさりげなく援助を行うようにした。経験を重ねて遊んでいくうちに指の発達にともない回す動作ができるようになっていった。指先の感触を楽しみながら、音や光も楽しむことができたので集中して遊べていたので良かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズ荏原町
施設所在地	東京都品川区中延5-6-9
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

子ども達は身近な物や素材に触れることに楽しんでいる。また新しい見慣れない素材にも興味や関心を持つ姿が見られる。様々な感触遊びを提供していく中で、好奇心を育み、子どもたちの手先の細やかな動きの練習、指先の発達に繋げるため。

2. 活動スケジュール

7月 ボディペインティング絵の具、氷絵の具
8月 うどん作り
9月 秋祭り、サーキット
10月 すなっこパーラー
11月 布、感触絵本
12月 スティック・オー、ヘアードレッサー
2月 ティーパーティー

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材 道具】

プロジェクター、テーブル、小麦粉粘土（様々な色）、ビーズ、ボンボン、京紙、紙皿（ほしハート）、テーブルクロス

・プロジェクターでケーキ作りを視聴する時は花組の部屋で行った。
・1日目...小麦粉粘土を形にしやすくするためにテーブルの上で良くこねて、好きな形のケーキの土台を紙皿にのせて、好きな素材を使ってデコレーションして仕上げた。少人数でゆっくり楽しめるようにした。1テーブル3人ほど。テーブルの真ん中に、様々な色の小麦粉粘土、ビーズ、ボンボン、型、ヘラなどを取り出しやすいように並べた。

2日目...昨日作ったケーキと紙コップに京紙を入れてジュースに見立てたものをテーブルに並べた。子ども達は自分で作ったケーキと好きな飲み物をもって、好きな席についた。パーティーで使用するテーブルには雰囲気づくりのため、テーブルクロスをかけて、おしゃれな格好で参加できるように、女兒はレースのスカートなども用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・小麦粉粘土が好きな子ども達で特にうどん作りの後から粘土で遊びたいとの声が増えた。「ケーキを作りたい!」「デザートごっこがしたい!」との声が上がっていた。そんな中源氏前保育園の作品展に招待された。2歳児クラスの作品の中に「ケーキ」が飾っておりとても興味を示した。帰り道に「今見たようなケーキを作りたい!」との声があがった。「どんなケーキを作って見たいかを聞かけると「いちご!チョコレート!」などの声があがった。「どうやって作るのかな?」と聞かけると「絵本で見ている、ママに聞いてみる!」などと友だち同士で言い合っていた。
- ・2歳児クラスの子が作り方を「スマホで見たい」と言ったので、次回プロジェクターで見えることを約束した。
- ・こねることで粘土の感触がやわらかくなることやいろいろな形になることを楽しむ。色付きの粘土を使うことで色彩感覚や創造性が育まれる。
- ・ケーキをイメージしながら作ることを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・プロジェクターを見ながら「イチゴのケーキ」可愛い「チョコのケーキ作りたい」「飾り付けよう」などとわくわくしながら視聴する様子が見られた。
- ・粘土をこねたり、たたいたり、のぼしたりちぎったりしながら感触を楽しんでいた。2歳児同士では「イチゴのケーキだよ」「プリンセスのケーキを作るよ」「レモンにする」などの会話のやり取りがあり、ケーキ作りをイメージしている様子が見られた。ケーキの土台になるものを作り、その上にカラフルな粘土をヘラで切って組み合わせていた。「飾りはイチゴに使用」「チョコにしよう」など様々な素材をの物を使ってデコレーションしながら自分がイメージしたケーキを完成させていた。
- ・ティーパーティでは、友だち同士でケーキを見せ合ったり保育者が作ったケーキも手に取ったりしながらいろいろなケーキが出来上がることを喜んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・取り組む際にはケーキ作りを楽しむことにはなっていたが、各年齢の発達をみながら子どもの感性に任せて見守ることを大切にしたい。0.1歳児クラスは、感触を楽しむことで、自分の操作で形に変化が生まれることに気づくように「伸ばしたら細くなるね」「まるくするとかわいいサクラノボみみたいだね」など、偶然にできた形の面白さに共感する言葉掛けを行い援助した。
- ・プロジェクターで様々なケーキ作りの映像をみることで、2歳児クラスの子はイメージが広がりいろいろな工夫がされていた。
- ・小麦粉粘土でケーキ作りを通して何を、どのような順序で作るのかを考えることで見通す力も育つことにつながるのではと感じた。